



2020 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 4 戦: オートポリス (大分県日田市) レース報告書

予選: 11 月 15 日(日)

天候	晴れ
観客動員数	4,410 人
成績	牧野 任祐 選手(#64): 12 位 大湯 都史樹 選手(#65): 5 位

決勝: 11 月 15 日(日)

天候	晴れ
観客動員数	4,410 人
成績	牧野 任祐 選手(#64): 3 位 大湯 都史樹 選手(#65): 10 位

第 3 戦から 3 週間を経て迎える第 4 戦。晩秋のオートポリスで SUPER FORMULA が開催されることは初めてのことで、どのようなレース展開になるかファンの注目が集まります。この週末は、朝晩の冷え込みが厳しかったものの、日中は気温がぐんぐん上昇し、汗ばむ陽気に。TCS NAKAJIMA RACING は土曜日に予定されていた計 2 時間の練習走行セッションを終え、日曜日の予選・決勝に臨みます。

<公式予選>

Q1 に A グループで出走した牧野選手は赤旗による中断の直前にマークしたタイムにより 3 番手で通過。B グループで出走した大湯都史樹選手は、トップタイムをマークしていたものの、同じようなタイミングで赤旗が掲出され、トップタイムをマークした周回は赤旗掲出後のコントロールライン通過と判定され、タイムが抹消されてしまいます。セッションは残り時間 3 分で再開され、大湯選手はここで 2 番手タイムを叩き出し Q1 を突破しました。続く Q2 では牧野選手が 12 番手で敗退した一方、大湯選手は、8 番手タイムで Q3 進出を果たします。Q3 での大湯選手のアタックラップは 1 分 24 秒 783 で 5 番手。牧野選手は 12 番グリッド、大湯選手は 5 番グリッドから決勝レースに挑みます。

<決勝レース>

定刻 14 時 40 分にフォーメーションラップがスタートします。その際、5 番グリッドからフォーメーションラップに臨んだ大湯選手はスタート時のエンジンストールで大きく出遅れますが、フォーメーションラップの周回中に 5 番手のポジションに復帰し、無事に決勝レースのスタートを切ります。大湯選手はスタート直後の競り合いで 1 つポジションを下げますが、2 周目で前走車をパスし 5 番手を回復。順調にペースを上げながら周回していきます。しかし、フォーメーションラップ開始時、エンジンストール後のスタート手順に違反があったとしてドライブスルーペナルティを課され、最後尾に後退してしまいます。その後、6 周目が終わる頃には、コース上で他車にクラッシュが発生し、車両回収のためセーフティーカーが導入されます。一方、12 番グリッドからスタートを切った牧野選手はオープニングラップを 11 番手で終え、このセーフティーカーがピットに戻り、レースが再開された 10 周目の終わりでピットイン。その翌周には大湯選手もピットイン、早々にピット作業(タイヤ交換義務)を早々に消化した 2 台は攻勢に出ますが、ここで再びセーフティーカー

が導入されるアクシデントが発生します。このセーフティーカー導入でピットインを終えていないマシンが続々とピットインし、順位が整理されると、牧野選手は 5 番手、大湯は 12 番手に。その後、ピットインを終えていなかった最上位の 3 台もピットインを終えると牧野選手は 3 番手、大湯選手は 10 番手に浮上。2 台はそのままチェッカーフラッグまで無事にマシンを運び、大湯選手は 10 位フィニッシュで 1 ポイント獲得、牧野選手は SUPER FORMULA のデビュー 2 年目にして初の表彰台獲得となる 3 位でレースを終えました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「今回のスターティングポジションから表彰台に上がったことは粘り強く走り続けた成果だと思います。まずは牧野にとって初の表彰台を嬉しく思います。大湯にとっても今回のようなレース展開で 1 ポイントを獲得できたことは幸運でした。今回はこれまでの流れを変えるレースになりましたので、残り 3 戦、さらに上位を目指します。今回もたくさんの方の皆さまのご声援をありがとうございました」

牧野 任祐 選手:

「昨年のデビュー戦以来、うまくいきそうでいかない苦しい展開が続いてきた中で、ようやく表彰台獲得という形で結果に繋がれたことは本当によかったです。最初のセーフティーカー導入後は、とてもいいタイミングでピットインできました。2 回目のセーフティーカー導入は逆にタイミングが悪かったものの、その中でもできることに専念しました。まだ、上位の 2 台に比べればレースペースは足りませんし、課題は少なくありません。次戦はチームにとっても相性がいい鈴鹿サーキットなので、今回以上の結果を目指して頑張ります」

大湯 都史樹 選手:

「前戦(スポーツランド SUGO)の予選ではミスをしてしまいましたが、今回の予選ではパフォーマンスを発揮できました。予選 Q1 ではアクシデントもありましたが、チームが適切に対応してくれたおかげで、落ち着いて走ることができました。一方、決勝では、クラッチに不具合が生じ、うまくいきませんでした。何とか再スタートした後も、ドライブスルーペナルティを課されたことで、結果を出せずに終わりました。残念でなりません。レースの序盤ではいいところをお見せすることもできたかと思いますが、上位争いをお見せできず、期待に応えられていないことが本当に苦しいです。次戦は一番走り込んでいるコースなので、しっかりと結果を出したいです」

以上



※ 次戦(第 5 戦&第 6 戦)は、12 月 4 日(土)～5 日(日)に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で行われます。